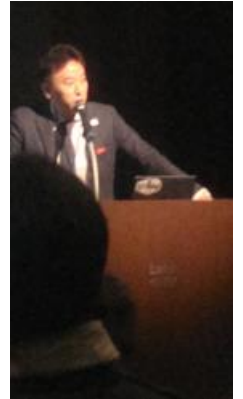


多言語対応・ICT化推進フォーラム

「熱中症予防声かけプロジェクト(外国人に対する情報の伝達方法)」

講演者：株式会社ジャパンデザイン代表/社会起業家 山下 太郎 氏

ジャパンデザインは「全てのアクションを社会貢献につなげるソーシャルビジネス推進」をモットーとして事業を行っている。全国の自治体や官公庁との連携で企画・運営している社会課題解決型プロジェクトのうちのひとつが、環境省主導の「熱中症予防声かけプロジェクト」。オリンピック・パラリンピックの開催時期が真夏であることから、熱中症対策は必要不可欠と思われるので、この活動の実績を紹介していきたい。



地球温暖化により今後も平均気温の上昇が懸念される状況において、日本の夏の熱中症は社会的健康課題と言える。地震や台風などの天災とは異なり、日頃から意識して対策をしていけば防げるケースも多いが、アンケート調査では日本人でも対策を行っている人は半数以下となっている。このプロジェクトは一人ひとりのそうした意識を変え、熱中症による死亡者をゼロにすることを目標としている。具体的には、街頭で飲み物やうちわを配ったり打ち水をするイベントの実施、16の自治体が連携した「熱中症予防月間出陣式」の開催、啓蒙チラシ・ポスター等の制作と自治体への配布、賛同企業の製品に「熱中症予防」のキーワードとプロジェクトのロゴを印字するなどの活動を行っている。

訪日外国人への啓蒙活動事例としては、訪日観光客の困り事解決活動を行うボランティア団体「おせっかいジャパン」との連携で、「ワールド声かけ隊」というイベントを渋谷で開催し、外国人に多言語で声かけを行ったほか、ピクトグラムと英文で「日本の夏は暑い」と説明する啓蒙ビデオを制作し、賛同企業である大規模小売チェーンの店頭ビジョン等で放映すると同時に、レジ袋も夏季特別カラーリングとして熱中症予防を呼びかける英文を印刷した。また、航空会社でもこの動画を機内で放映したり、機内誌に記事を掲載した。



街頭イベント



外国人向け啓発動画



我々のプロジェクトでは「統一文言・ロゴ・デザインを使ってイメージを醸成する」「導入・運用コストを抑える」「簡単に使えるツール」そして「啓発に参加する側にもメリットがある」ということを常に意識している。

これに加えて2017年から、夏のイベントなど熱中症発生リスクの高いシーンで適切な対策を行う「熱中症対策アドバイザー」の養成講座をスタートしている。2020年に向けては、観光ガイドや通訳ボランティアにこのアドバイザー知識をプラスして、熱中症予防のできるボランティアの育成や質の向上に貢献したいと計画している。

(平成29年度作成)

「多言語対応・ICT化推進フォーラム」

参考資料配布：<http://www.2020games.metro.tokyo.jp/multilingual/council/#m07>